

日本医療薬学会 第3回フレッシュャーズ・カンファランス開催報告書

第3回フレッシュャーズ・カンファランス 実行委員長 渡辺茂和

2019年6月16日(日)、帝京大学板橋キャンパス(東京 板橋)において、第3回フレッシュャーズ・カンファランス(主催:日本医療薬学会フレッシュャーズ・カンファランス委員会)を開催いたしました。本カンファランスは、薬学部の学生や大学院生、研究活動の経験が浅い薬剤師などを主たる対象に、研究活動の成果を発表する機会として2017年に第1回が開催されました。2018年の第2回はあいにく大雨のため、実際に開催することができませんでしたでしたが、今年は無事に第3回を開催することができました。当日は、参加者の気持ちを通じたのか、雨の予報にも関わらず晴天に恵まれ、関東、関西を中心に208名と大勢の参加をいただくことができました。学生の参加も90名を数え、多くのフレッシュャーズにより口頭発表29演題、ポスター発表50演題の活発な発表及び討論が行われました。実行委員15名による優秀演題発表賞の選考も行われ、口頭発表10名、ポスター発表18名が優秀演題発表賞に選ばれました。

大会の運営には実行委員以外にも19名(大学教職員9名、学生10名)のスタッフが協力して口頭発表3会場に各5名(計15名)、受付3名、ポスター会場1名に分かれ、加えて日本医療薬学会事務局3名の方には事前の手配と当日の受付参加者確認など尽力いただき、大変スムーズに大会を進行することができました。

教育講演では、大阪大学医学部附属病院薬剤部長で日本医療薬学会会頭である奥田真弘先生に座長の労をお取りいただき、帝京大学薬学部教授 安原真人先生より「フレッシュャーズのための医療薬学研究事始め」とのタイトルで講演が行われました。安原先生の病院薬剤師としての経験をもとに、薬剤学研究の薬における有効性、安全性、使用性に関する研究の歴史や行政における薬剤師の役割の変遷、今後の臨床現場における薬剤師の研究領域やその使命などについて講演していただきました。参加されたフレッシュャーズのみなさんも社会が求める薬剤師像について、認識も新たにすることができたことと思います。

全般を通して、今回発表された皆様におかれましては、フレッシュャーズとは思えない堂々とした内容であり、薬剤師の明るい未来を感じさせるものでした。

最後に、今回のフレッシュャーズ・カンファランス開催にあたり、実行委員会の皆様、帝京大学及び東京薬科大学のスタッフ、日本医療薬学会事務局の方々に心から感謝するとともに御礼申し上げます。